

HYBRIDA  
Contemporanea

イブリダ  
コンテンポラリー・ギャラリー

UEMON IKEDA

池田うえもん

GIASONE E LA BELLA MEDEA 「イアソンと美貌のメディア」展

Hybrida Contemporanea  
via Reggio Emilia 32, 00198 Roma  
tel.e fax: +39 06 99706573  
[www.hybridacontemporanea.it](http://www.hybridacontemporanea.it)  
[info@hybridacontemporanea.it](mailto:info@hybridacontemporanea.it)

池田うえもんは、日本に生まれ、ローマに70年代より生活しながら、制作活動を行っているアーティストです。彼の作品には、記号と言葉が、インスタレーションと絵画、個人の記憶と集団の記憶、神話と今日性が、交差し共存しています。今回の「イアソンと美貌の王女メディア」展では、水彩画シリーズを展示します。建築構造と裸体を描く流れるような線、黒い線、色彩の染み、絵に添えられた言葉が、描かれたイメージの記憶の断片を繋げます。起きた出来事を暗示しながらも、同時にあらゆる物語性を否定しています。

初日、オープニングには、アーティスト池田が著作した「イアソンと美貌のメディア」が朗読され、イアソンとメディアの出会い、旅の記憶が、アーティストの自身の生きてきた体験と交差しながら、聴衆の記憶と共鳴するはずです。その薄れ行くが、確かな記憶でもありながら、流れるように拡大しまた止まろうとする一時性の中で、池田の作品の中で、過去と現在の時の移りが否定され、池田の水彩画のイメージと符合している様です。

最後に「金の羊の毛皮」、毛皮のインスタレーションが現実のそして観念の展示空間に、鮮やかにその存在をもたらしてくれます。会場を走る赤い糸は、まるで有機体のフィラメントの様で、空間をパルスしながら、空間と絵画、鑑賞者の間を走り、あたかも「見ている事柄」の意味合いと「文脈」が連続的にスリップしていくようです。アーティストの語る言語の要素が、再度走り出し再度鑑賞者を取り込んで行きます。池田うえもんは、アルゴの勇者を記号の世界の中で、新世界の発見と旧世界の記憶、美貌のメディア、その純粋な可能性、美、恐怖、被った・課された苦悩、共同の記憶が個人化する、自己的な記憶が共同の記憶として展開する、これらの「力の可逆性」を私達に問いかけます。



協賛・後援

日本文化会館、日伊基金、ローマ国立大学ラボラトリー・コンテンポラリーアート美術館、マルタ・ビアンキ工房デザイン・コミュニケーション。

広報担当

Emanuela De Notariis 347 6127196 - Marta Bianchi 338 5633278